

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570112201		
法人名	株式会社 秋田介護支援センター		
事業所名	秋田ひまわりの家 グループホーム		
所在地	秋田県秋田市下北手桜字新桜谷地85番地		
自己評価作成日	平成29年9月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成29年10月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・当グループホームの理念「私らしく、あなたらしく、想いを大切に」を中心とし、個々の個性を尊重し、互いに思いやりの気持ちを持って生活していけるように支援しております。
 ・2階がグループホームで、1階に併設しているデイサービスの方々と交流し、馴染みの関係を築いております。
 ・月に18組位のような様々なボランティアの方々が歌や踊りを披露しにいらっしゃって、入居者様が参加し楽しめるようになっております。
 ・屋外には事業所で行っている畑もあり、季節に応じた花や野菜を楽しむことができます。
 ・定期的に屋外へ出掛けて季節の変化を感じ、行事に参加し楽しみ気分転換できるようにしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな太平山のふもとに位置し、利用者との会話の時間を大切に“笑顔が元気の源である”をモットーに、日々笑いの絶えない支援を実践するよう心掛けている。また、利用者が残存機能を維持できる場面づくりを大切に、できるだけ今できている事が少しでも長くできるようリハビリテーションを日常的に取り入れ、日々の暮らしの中で発揮できるような支援を実践している。職員は看取りケアを体験していることから、今後も希望があれば医療と連携を図りながら実践できるよう前向きに取り組む姿勢を持っている。防災に関する意識も高く、今後更なる地域と関わりの中から、事業所としてどう進めていくかについて模索している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月スタッフミーティングで理念の確認を行っており、日々の出来事や様子を職員同士で確認し、入居者様の内的な世界を理解できるように努力しております。	「私らしく、あなたらしく、想いを大切に」の理念を常に意識し、利用者の想いに寄り添うことを大切にしながら、その人らしさを尊重した支援となるようケアの実践に心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	同施設のデイサービスの利用者様との交流を行ったり、町内会の清掃行事に参加や、地域の敬老会に参加しております。 更なる交流機会を模索中です。	ボランティアとの交流が盛んに行われている。町内会の行事に積極的に参加し、地域との交流が図られている。	今後更に、自治会や学校等と連携を深め、小中学校の地域間交流体験活動の一環を担ったり、災害時の避難場所として、地域で暮らす支援が必要な人を受入れる体制作り等、事業所自体が地域の資源として活用されるよう地域の方々と一緒に検討されることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議を通じ、地域の民生委員や社会福祉協議会の方、家族の方へ制度や対応の説明を行い、理解を深めて頂いております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設での行事や、防災についての報告を行い、その時話題になっている介護等のニュースの話し合いを行い、今後の施設運営の助言を頂いている。	運営推進会議を定期的に開催し、地域の方や行政の方にグループホームの活動状況や利用状況の報告等を行い、参加して頂いた方々と意見交換をして、要望や助言などをサービス向上に取り入れるよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点などがあれば連絡や訪問し、改善点を確認しております。	地域包括支援センターの職員と連絡を取合い、事業所の実情や改善点を確認して、サービスの向上に繋がるよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社外の研修に積極的に参加をし、社内での全体勉強会を行い全体の職員の理解を深められるようにしております。 スタッフミーティングや、全体勉強会の際に 3つのロックについて確認しております。	職員はスピーチ・フィジカル・ドラッグの3つのロックを理解し、拘束をしないケアを実践している。やむを得ず、医師より処方された薬を使用する場合は、エビデンスをはっきりと示し、介護記録に残すことを徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内の全体勉強会や、社外研修に参加をして理解を深め、日頃言葉の抑制がないか確認しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は外部での研修を予定しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書・運営規程などをもとに入居者様や、ご家族様に対し、疑問点がないか確認して理解・納得して頂けるよう説明しております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に御意見箱を設置しております。電話や、御家族様来所時や、ご本人様より意見を確認しております。今年度の秋田ひまわりの家・新聞を通じて、アンケートを実施してサービス利用についての意見をお伺いしております。	運営推進会議では家族等が意見や想いを出しやすいようにしている。意見や要望があった場合は、職員が情報を共有し、話し合った結果を家族に伝えるなど、できるだけ迅速な対応を心掛けている。また、より多くの意見や要望を出してもらえようアンケートも実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っている、スタッフミーティングや、管理者会議・全体会議を行っております。運営に関して意見を確認する機会を設けております。	スタッフミーティングは忌憚なく意見が言える雰囲気を実施され、管理者会議・全体会議を通じて、スタッフの意見が代表者等に伝わるよう体制作りができています。また、スタッフが受けたい研修を受講できるよう配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者会議や、全体会議を開催し、要望や働きやすい環境を確認できる機会を設けております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に1回以上は全職員が外部の研修へ参加し、スキルアップ出来るようにしております。新人には指導役を決め、介護の方法や、理念・入居者様の思いや、個性を理解できるよう指導しております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	秋田市認知症グループホーム連絡会に加入しており、秋田市のグループホームとの情報交換や、勉強会等に参加しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前時点では御家族様の困っていること、不安などを事前に確認できるように、事前訪問や電話確認しております。また御本人様が利用している施設や、ケアマネージャーにも同様に確認をしまして、初期の関係づくりに努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	介護状況や御本人様との関係性、経済状況をお伺いし、今後の生活を御家族様と一緒に考え信頼関係を築けるように努めております。入居後は、電話や写真付き挨拶文を利用して生活状況を報告しております。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で御本人様の個々に合った役割を持てるように、掃除や買物、食器拭きや、洗濯たたみなど、様々なことを一緒に行い、共に過ごしております。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時の情報交換や毎月写真付き挨拶文を送付して、近況報告しております。また、御家族と外食や法事などで、ご希望に合わせて自由に外出して頂き、御家族との時間を共有できるようにしております。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時々御本人様希望で近くの親戚の方の家に行かれる方がおります。 御本人様・御家族様の意向に沿って、御家族様と協力して関係性を保てるようにしております。	ご本人やご家族の希望があれば、できるだけ実現できるよう送迎を行ったり、ご家族で外出する際の支援をしたり、これまでの関係性を大切に考えて実践している。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性を考慮して、一緒にできる家事作業の支援や、入居者様皆様が参加できるようなレクリエーションを考え、実施し孤立しないように注意しております。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後でも、情報提供や手続き等の支援を気軽に相談してもらいたい事をお伝えしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御家族様からの意見や、普段の生活状況・表情・会話など、意見を取り入れ困難な方でも同様の事を踏まえ望む暮らしに近づけるように努めております。	思いや意向はご本人に聞くことを基本としながらも、把握が難しい場合はご家族に聞いたりするなど、職員は、普段から利用者と話しをする機会を多く設けて、日常の生活から思いや意向を汲み取るよう努めている。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に生活史への記入をして頂いてもらっています。御本人様や、御家族様からも聞き取り把握できるようにしております。また介護サービス利用があった方は、その関係者からも生活状況を確認して経過を確認しております。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りや、記録を元に、その日の精神や、身体状況を確認しております。毎月のスタッフミーティングで、有する力の把握等の現状を話し合い、共有し各職員で対応の差異が生じないよう注意を行っております。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護サービス計画書の原案を用いて、本人・家族と話し合いを行っている。また、提携している医療関係者や職員と随時話し合いを行い、介護サービス計画書に反映して作成しております。	介護支援専門員が「思いシート」を活用してご本人の気持ちの把握に努めたり、スタッフミーティング時にモニタリングを丁寧を実施し、情報の共有化を図りながら、次に向けたポジティブな介護計画書となるよう、チームで作成している。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々の様子やケアの実践を記録し、申し送りや、スタッフミーティングで気づきや、ケアの工夫、対応の確認をするようにしております。御本人様の状態に変化が生じた際には介護計画の見直しを行っております。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会との清掃活動や、近くのスーパーへの訪問、地区敬老会に参加しております。同敷地内の1Fデイサービスに来ているボランティアとの交流機会を持ち楽しめるようにしております。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のご希望を確認し、かかりつけ医との関係を継続されるよう確認しております。現在は協力医院の往診を全ての方が希望されております。また必要な時に歯科医の往診もあります。	利用者・家族の希望を最優先し、医療との連携を図りながら適切な時期に適切な処置が受けられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院との契約により、週1回の訪問看護と協力し、体調管理を行っております。日々のバイタルサインや、食事量・体重・排泄状態などを確認して、主治医との連携を実施しております。 突然具合の悪くなった方がおりましたら、24時間電話で協力病院の看護と連携し対応行っております。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後、主治医・看護師・相談室や御家族様との電話連絡や面会を行い病状について共有して退院の目処がいつになるか確認して、早期の退院ができるようにしております。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	段階的に将来像を話し合い、終末期における対応を確認するようにしております。協力病院の医師へもグループホームの方針を伝え、必要に応じ話し合いを重ね協力して頂けるよう依頼しております。	入居する前の事業所説明時から、終末期における対応について事業所の方針を説明し、納得いただいた上で入居して頂けるよう努めている。また、協力病院による往診と訪問看護による訪問により、段階に応じて適切なアドバイスがもらえるよう、連携が上手く図られ、関係者とのチームプレイができています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の指導のもと、心肺蘇生法や緊急時の対応を職員全員が受講できるようにしております。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち会いのもと避難訓練や夜間想定避難訓練では、同じ敷地内の宿泊サービスと共同で避難体制を確認しております。 運営推進会議を通し、避難誘導の仕方など話し合い、マニュアルを作成し常に更新しております。	2階にグループホームがあるので、消防署からのアドバイスを基に、非常階段以外、館内の階段には折り畳み式のスロープを設置し、緊急時に活用できるよう工夫されている。	階段のスロープの傾斜が急なため、利用者が不安なく降りれるよう工夫されることを期待します。また、2階から1階まで避難した後の避難経路・場所をどうするか等、運営推進会議に参加頂いている町内会・民生委員の方の協力を得て検討されることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の空間が保てるように、御本人様が一人で過ごしたい時や、共に一緒に過ごす時間を持つことが出来るよう職員同士確認し、配慮しております。排泄時の声掛けでは、羞恥心や周囲への配慮を行い、さりげなく移動できるようにしております。	理念である「私らしく、あなたらしく、想いを大切に」に立ち返り、普段から指示的な言動とならないよう気を配り、利用者の意思を大切に、ポジティブな声かけに気を付けて支援している。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人様のご要望がありましたら、意向に添えられるようにしております。日々の会話・仕草から、表現が困難な方であっても声掛けを行い確認しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	御本人様希望のもと、御家族様や関係者と共同して希望が添えられるように支援しております。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人様の好きな衣類や傾向を踏まえ、オシャレを楽しめるようにしております。また化粧やマニキュアが好まれる方には、声掛けを行い、お手伝いしております。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬な季節のものを取り入れ、入居者様と一緒に買物や調理、食器拭き、片付けなどを行うようにしております。また、外食に出掛け気分転換を出来るようにしております。	利用者の咀嚼・嚥下機能等に合わせて食事の形態に気を配り、その方にあった調理方法で提供している。また、利用者のできる事や、やりたい事を把握して、一緒に準備や片付けなどの手伝いができるよう配慮している。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や1日の水分量の確認、また排尿状態・気温を踏まえ水分量が不足していないか注意しております。御本人様の咀嚼や嚥下状態に合わせて、食事形態を変え自力摂取できるように工夫しております。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前の口腔体操や、食後の歯磨きが出来るよう、声掛けや介助を継続的に行っています。また水分にトロミを使用している方で、口腔ケアでうがいやむせ込んだり、上手くうがい出来ないために、歯磨きテッシュで対応している方もおります。また、定期的ですが歯科往診にて義歯の調整や口腔状態について確認することもあります。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄ができるよう間隔や時間を見て声かけや仕草から失敗しないように努めております。出来るだけオムツの使用を減らし、自立に向けて取り組んでおります。	排泄チェック表を活用して、できるだけトイレでの排泄が上手くできるよう支援している。また、排泄の自立に向けて、立位保持機能や自力歩行機能を少しでも長く維持できるよう、リハビリテーションなどにも力を入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、乳製品の摂取や水分摂取量の確認、体操や散歩などの運動を取り入れ予防しております。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調や意欲、バイタルサイン、予定を確認し、特に入浴日や時間は決めず御本人の意思決定のもと入浴することが出来るようにしております。	いつでも入浴ができる体制を整え、その方の意向を尊重して、少なくとも週に2回以上入浴して頂けるよう支援している。また、入浴剤や湯温の好みを把握して、入浴を楽しんでいただけるような工夫をしている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動機会を持って頂けるよう日課を行い、生活リズムを持てるようにしております。御本人様の生活スペースや就寝時間を確認し、ゆっくりと眠れるようにしております。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、訪問看護と連携し、薬の効果や副作用について確認しております。誤薬が無い様、複数の職員で服薬内容をチェックし確実に服薬できるようにしております。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御本人様の生活歴や個性を踏まえ、役割としての買物・掃除・洗濯たみ・調理・片付けなどを行っております。また化粧やおしゃれを楽しめるように、声かけやお手伝いをしております。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御本人様の希望に合わせて、買物や美容室に出かける方や季節行事を企画し皆で外出して楽しむ機会を持てるようにしております。御家族様と外出し、外食や美容室へ行かれる方もいらっしゃいます。	できるだけ閉じこもらないよう、外出の機会を利用者に提供している。高齢化に伴い、外出に難色を示す利用者も見られるようになってきていることから、散歩や外食など外出のきっかけを作り、マンネリ化を防ぐ努力をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御本人様の要望に合わせて、必要なものがあれば一緒に買物に行き、商品選びや支払い支援を行っております。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人様の要望に合わせて、電話の希望があれば御家族様と会話ができるようにしております。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	急な大きな音に注意し、混乱が無いように支援しております。季節行事に合わせて、室内の展示物を変更して季節の変化が感じられるように努めております。室温・湿度に注意し、各居室・共用部分に温・湿度計を設置し加湿器やエアコン等を利用して室内環境を調節しております。	職員は「笑いが絶えない、笑顔が元気の源である」をモットーに、利用者が居心地良く過ごせるように日々取り組んでいる。また、季節感を感じて頂けるように飾り付けを工夫したり、室温や湿度についても注意を払っている。	共有スペースの一部がデットスペース化しているため、有効に活用し、更なる居心地の良い共有空間となるよう期待します。
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内にソファーや長椅子を設置し気の合う入居者様同士が、ゆっくりと談話出来るようにしております。個々の居室は私的な空間として、ゆっくりと過ごせるよう必要以上の訪問に注意しております。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や衣類・食器・家族の写真などを居室に持込み、馴染みのあるものを持ってきて頂き回想出来るようにしております。	持ち込み品については、入居前の見学等でご家族やご本人が居室の活用方法等について、よく検討されてきており、使い慣れた品々が持ち込まれている。また、空調設備も個々の部屋で好みに合わせて調整できるようになっている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各共用部分のトイレや風呂場などに表示をし、視覚で確認し御自身で移動できるようにしております。また居室やホール、階段・トイレと手すりを設置し転倒への予防や段差の無いように確認しております。		